

# 守山市発達支援センターだより

平成30年12月号(平成30年12月28日発行)

守山市発達支援センター

守山市下之郷三丁目2番5号 すこやかセンター内

Tel: 077-582-1158 Fax: 077-581-1628



## 「特別支援教育研修会」を開催

9月、11月に特別支援教育研修会を開催しました。

第1回 「発達障害に合併しやすい思春期の精神疾患への支援」

滋賀医科大学 小児科学講座 特任准教授 阪上 由子先生

「済生会守山市民病院の取組」

済生会守山市民病院 小児科 医長 上羽 智子先生

99名の参加があり、阪上先生からは発達障害のある子の思春期に起こりうる心身症状、特に起立性調節障害について症状をはじめ、関わりや支援方法についてご講演いただきました。上羽先生からは市民病院の取組を通して、起立性調節障害等の症状、治療、中学校在籍時にできる支援についてお話いただきました。支援について、医療と校園の協力、連携が不可欠であることを強調されていました。

第2回 「支援者のカウンセリングスキルをアップさせるために」

関西外国語大学 英語キャリア学部 教授 森田健宏先生

66名の参加があり、前半の講義では、子どもに対して自分の主張を受け止めてもらえたと実感させることの大切さや親と対等なパートナーシップを結び互いの思いを伝え合える関係づくりの必要性など、支援者の心構えをお話いただきました。後半は、体験実習で支援者役と相談者役に分かれてペアワークを行い、面談におけるポイントや面談に入る前の事前準備の必要性、面談時の座席の配置や質問の仕方等、各現場で実践できる技法を教えてくださいました。実際の面談等の場面で実践されていることと思います。



## 「発達障害を知ろう講演会」を開催

12月8日(土)市民ホールで、「《発達障害を知ろう》講演会」を開催し、市民や校園関係者、医療・福祉関係者等、274名の参加がありました。

「発達凸凹のある人の思春期を考える～青年期から成人期の適応を見越して～」と題し、滋賀医科大学の阪上先生のご講演と、後半は上羽先生にもご登壇いただき、参加者からの質問に対談形式でお答えいただきました。

思春期をテーマにご講演、ご対談いただくなか、参加者からは、「家庭での具体的な関わり方を知ることができてよかった」「学力もさることながら、生活スキルが大事だとわかった」「『本人が相談できる力をつけることが大切』の言葉が印象に残った」などの感想がありました。

参加者は過去最高人数となり、アンケートの感想の記述も多く、家族や支援者から具体的にどのように関わっていけばよいか、支援していけばよいかの質問や感想が多くありました。



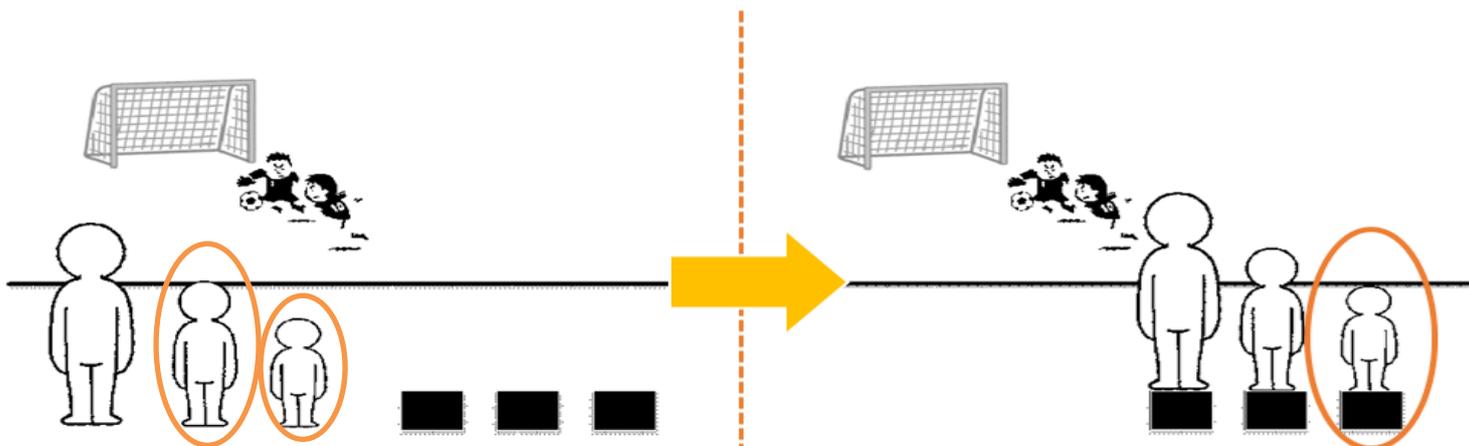
### お知らせ

◎ 「発達障害を知ろう」講演会で、参加者の皆さまから阪上先生・上羽先生へのご質問の回答を、随時市ホームページに掲載していく予定です。

# 合理的配慮をイメージしてみると

## ■ 公平な配慮

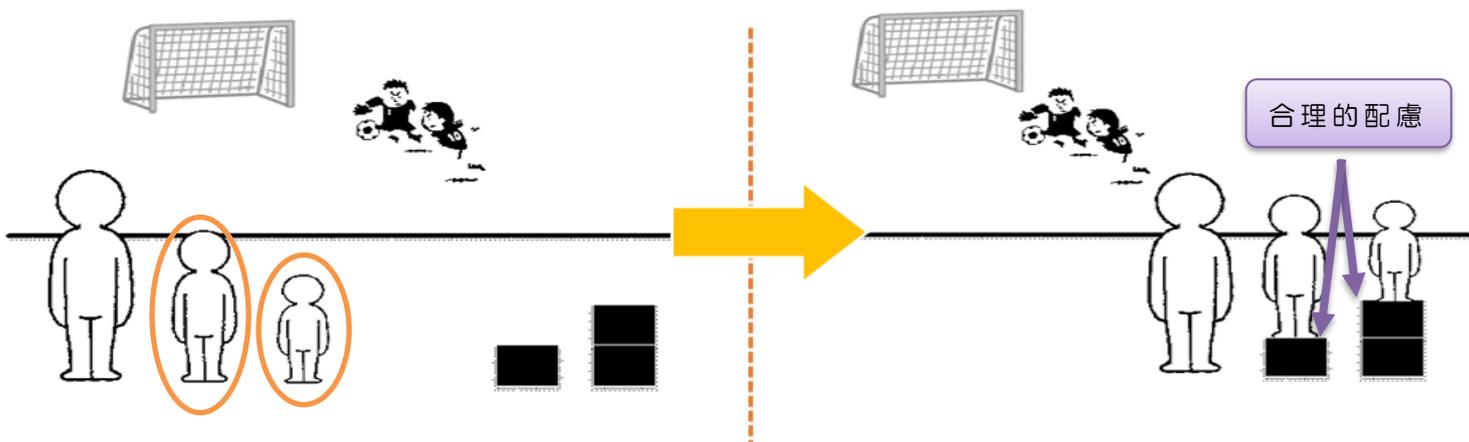
公平に台を用意しても、「公平な配慮」では見られない人が出てくる



## ■ 合理的配慮

実態や特性に合わせた、配慮実態に合わせた台を用意

実態や特性に合わせた配慮があることで、平等に参加ができる



合理的配慮とは、障害のある人の人権が障害のない人と同じよう保障されるとともに、教育や就業、その他社会生活において平等に参加できるよう、障害のある人一人ひとりの必要性や特性、困りごとなど状況に応じて行われる配慮のことです。地方公共団体や公立学校等は、「障害を理由とする不当な差別的取り扱い禁止」と「合理的配慮の提供義務」が障害者差別解消法により法的義務として課されています。園や学校現場では、子ども達が園や学校での生活を送りやすく、学びやすくするための工夫が「合理的配慮」となります。

子ども達一人ひとりが個性をもっていて、得意なこともそうでないこともあるので、みんな一緒に同じ方法で学んだり、園や学校生活を送るのが難しい場合があります。そんな時に視力の弱い人がメガネをかけるように、その子に配慮があれば、学びやすく生活しやすくなります。例えば、先生の話聞いて想像することが苦手で、内容を理解することが難しい子どもがいる場合には、絵や写真、実物などを見せて説明することで、授業（保育）内容や活動予定を理解しやすいよう配慮する、などです。本人や保護者、園・学校とどのような配慮が必要かの「相談」、本人や保護者と園・学校で合意した配慮の「実施」、定期的な配慮の「見直し」が必要になってきます。

園や学校で一人ひとりにあった学び、生活のサポートをしていくために、園・学校やクラスに合理的配慮が必要な子がいるか、どのような合理的配慮が必要か、必要な合理的配慮を実行して、見直しているかを振り返って考えてみませんか。